

自然エネルギー信州ネット 平成28年度第1回運営会議 議事録

開催日時: 2016年6月16日(木)10:00~12:00

開催場所: 松本市市民活動サポートセンター会議室

出席者(敬称略):

会長: 茅野實

理事: 平島安人(議長)、田村恵子、合原亮一、茅野恒秀

監事: 沖野外輝夫

顧問: 古川浩、飯田哲也

長野県: 赤羽又三郎

事務局: 宮入賢一郎、小田切奈々子、小林有紀子

会員: 2名

議事録作成: 小林有紀子

議長: 平島

開会挨拶: 茅野實(会長)

宮入事務局長より今年度から顧問にご就任いただいた古川環境エネルギー課長からご挨拶を賜りたいとの提案があり、古川顧問より挨拶。

議題、資料の確認: 小田切

議事

1) 2015年度 事業報告 資料1-1、資料1-2

・事務局小田切より説明。

■質疑

茅野会長> 昨年度より各地域協議会との窓口となる理事を置いているので、担当がわかる資料を用意した方がよいのではないかと。

小田切> 了解。専門部会にも窓口となる理事を置いているので氏名を明記します。

2) 2015年 収支決算報告 資料2-1、2-2、2-3

・小田切より説明。2016年5月20日(金)に会計監査を実施した。

■質問は特になし。

3) 2016年度 事業計画(案) 資料3

・平島議長より説明。2016年3月26日(土)に開催した平成27年度第4回運営会議で大きな枠組みは了承されている。前回の運営会議からの変更点は、

①2016年5月16日(月)に開催された deENet とのシンポジウムを通じて、企業会員との連携強

化が信州ネットの魅力アップのために必要との認識にいたった。そこで「自然エネルギー産業クラスター」形成の研究を追加することにした。

②前回の運営会議では「信州ネットのNPO法人化」を明記したが、反対の意見があり、その意見内容は法人化ありきではなく、組織形態のあり方の検討を詰めることが先決と考えられるものだった。よって今年度事業計画では、「信州ネットの組織形態適正化」と書き方を変更した。

■質問は特になし。

4)2016年度 収支予算計画(案) 資料4

・小田切より説明。

■質疑

沖野監事>昨年頂いた茅野会長からのご寄付が使われずに今年度予算に計上されている。

そのため予算書を見ると繰越金・予備費が多く、余剰金の多い運営に見える。それは実態に即していないように思う。寄付金分は特別会計にしてはどうか？

宮入>助成金の精算やSUWACO Labo還元金の入金は事業完了後の年度末となるため、予備費は運転資金としてもっておく必要がある。

茅野(恒)>寄付金をどのように使うかは、寄付した方の意向を尊重するのが大前提である。

茅野会長>寄付は事務局の維持費(人件費)に充ててもらいたい。現状に対して毎年200万円程収入を増やさないと充実した事務局体制をとることができないのが実情。今年度は地球環境基金が採択されたが、助成金が取れない年もある。そのような時に活動を停滞させないように措置してほしい。

茅野(恒)>特別会計の新設は会計上、難しいか？

合原>難しくはない。一般会計へ繰り入れる際のルールを定める必要がある。特別会計から一般会計へ繰り入れる判断は、運営会議ですればよいのではないか？

平島>沖野監事より提案いただいた特別会計の設置について、今日の運営会議で検討した旨を総会で説明し、予算案に反映させてはどうか？

全員>了解。

沖野監事>支出の部で昨年度のSUWACO Labo還元金活用事業費予算200万円が今年度は0円になっている。この欄は不要では？

茅野(恒)>昨年度の予算書と整合させるため事業費の欄を設けた。これまでの実績から支出項目の精度が高まった為、今年度から各勘定科目に振り分けることにした。事業費として一括計上するより、透明性が高まると考える。備考欄には「支出の精度が高まったので事業費として一括計上するのではなく、各科目に振り分ける」と記載する。

5)役員人事について

・平島議長よりこれまでの経緯を説明。茅野会長より体調がすぐれない為、今年度の定時総会をもって辞任したいとの申し出があった。会長の意思を尊重し理事間では了承した。信州ネットの規約第7条には「【会長】全体の調整・統括役として理事の中から1名を運営会議の推薦により、

総会の議決を経て選任する」とある。よって次期会長を推薦したい。これまで理事で話し合ってきた結果、次期会長には信州ネットの監事であり、信州大学工学部教授の高木直樹先生を推薦したいとの結論に至った。ご承認をお願いしたい。

〈茅野会長よりご説明〉

これまで信州ネットにずっと携わってきた方で、経緯をよく分かってらっしゃる高木先生は最適任だと思う。ただ、とてもお忙しく、信州ネットに費やす時間を多くはとれないとのことだが、あえてお願いした。強いリーダーシップをとることはできないがそれでもよいならと了解して下さった。

■質疑

宮入> 総会での議事進行の順番だが、まず会長改選の議事を最初に行い、過年度分の議事は前会長に議長をしてもらい、今年度分から新会長に議長をもらうということかどうか？

小田切> 茅野会長には顧問として今後も信州ネットにご尽力いただきたい。監事 1 名については事務局の方でなるべく早く探します。

■決定事項

定時総会に向けての議事はすべて承認された。議事の順番は会長改選を最初に行い、過年度分の議長は茅野会長、今年度分は新会長の議長で進行することで承認された。

■意見交換

【信州自然エネルギー白書について】

茅野(恒)より白書の構成と作業課題について説明。

沖野> 地域協議会としてぜひ協力したいが、どう協力すればいいのかまだ具体的にわからない。会員に早めに説明していただけるとありがたい。また、各自治体の条例など実態も把握してもらえるとありがたい。

宮入> 長野北信地域協議会の総会でも白書にお手伝いしたいという声があった。市町村の情報は地方事務所経由で県にくるので、それ以外の物を調査すると良いと思う。1村1自然エネルギープロジェクトも地域の顔がみえるので盛り込んでみてはどうだろうか？ 地域協議会の活動は主に普及啓発が多いので、その全体像もまとめられると思う。

茅野(恒)> 市町村の情報、1村1自然エネルギープロジェクトについては赤羽さんと情報交換したい。

小田切> 白書のチーム構成について。事務局的な役割をしていただける人、ハンドリング部分で茅野先生の右腕のような人材が必要ではないか？

茅野(恒)> 松本市では学生に手伝ってもらえるので、いい人材なら在住地にはこだわらない。

【自然エネルギー産業クラスターについて】

平島> 県として具体的なイメージはありますか？

古川> 具体的なものはまだない。deENetの所長の話聞いて、北ヘッセン地域ではライバル関係

にある企業が集まって切磋琢磨していることが分かった。自然エネルギー産業を発展させることで信州ネットの企業会員も増加できればと思う。環境エネルギー課だけでなく、産業労働部や他の部局も関係あることなのでまずは共通認識をもつため勉強会などから始めればいいのでは？

飯田＞11月3日に福島市で「第1回国際ご当地エネルギー会議(仮称)」を開催する。(全国ご当地エネルギー協会、環境エネルギー政策研究所(ISEP)、世界風力発電協会で構成する実行委員会の主催、福島市の共催) G7で日独環境協定が結ばれ、日独の自治体協定(ツイニング)を進めていくことになった。ドイツから10人ぐらい首長が来る。また11月4日～5日にかけてツイニングのワークショップが東京で開かれると思う。その前の週には自治体会議がある。これらがクラスター形成の学びの機会になるのでは？来年のご当地エネルギー会議をぜひ長野で開いていただきたい。

小田切＞企業会員は年々減少している。企業にとって信州ネットに参加するメリットが見いだせていないからだと思う。企業会員にとって魅力的な活動になると良い。本日まで出席の企業会員さんから何かご意見ありませんか？

会員＞面白い企画があればいいのだが。地域協議会で県や他の会員と相談していきたい。

【エネルギー自立地域を促進するための人材育成事業について】

合原＞当初は自然エネルギー大学の受講生をと考えていたが受講生が南信に集中していたので北信・東信・中信の意識ある人の発掘を目的としたい。

小田切＞企画案をみていただき方向性が合意できれば実務で進めたい。

連絡事項

2016年度定時総会のお知らせ

閉会

以上